

I 令和6年度の運営総括及び来期の課題

1. 乳幼児事業

(1) 総括

今年度は乳幼児親子の利用は、昨年度より少し減少したがほぼ変わらない。秋くらいまでは、保育園帰りの園児がよく遊びに来ていたが、冬は天気が悪く、感染症が流行り利用が減少した。2月頃には利用が増加してきた。昨年度と比較すると通常のちびっこ広場の参加者は少し減ったが、ちびっこ広場の季節の行事はあつという間に予約が埋まり季節行事を楽しみにしている保護者が多かった。

味方児童館は、16年経過し、当時小学生だった子が赤ちゃんを産んで母親として利用している。

味方児童館には味方出身の保護者の利用が多い。保護者の年齢は違っていても、みんな和気あいあいとおしゃべりを楽しんでいる。父親の利用も多い。それは10年以上前と変わっておらず、味方児童館に集合して子どもを遊ばせ見守りながら、近況を話したり育児の話をしたりして、交流の場になっている。

児童館を通じて誰かと話したり笑い合ったり、悩みを共有することで保護者の心が軽くなり、また子ども達も同年代の子どもと関わり合うことでより豊かな発達につながっていく。まさに支援センターや児童館だからこそできることで、地域の子育て支援に貢献できたと感じている。

①ちびっこ広場

毎週水曜日の午前中に『ちびっこ広場』を行っている。内容は絵本読み聞かせ、手遊び、親子体操、工作、誕生会等となっている。『ちびっこ広場』への参加を目的に来館する親子が多く、親子で一緒に手遊びやふれあい遊びをしたりする楽しさを共有している。昨年度も利用している幼児の多くが、保育園や子ども園に通うことになったため今年度は昨年度より利用が少なかった。季節のイベントはとても好評で、すぐに予約が埋まった。今年度は、0歳児の利用が多く、BP講座ゆりかご学級に参加し、仲良くなった母親たちが誘い合って遊びに来ていた。幅広い月齢児が参加していた。乳幼児親子は、月齢の高い子ども達が生き生きと広場を楽しむ様子を見て刺激を受けるよい流れができていたように思う。

②移動児童館

移動児童館では、児童館のない地域に出向くという事で月潟小学校区で3回実施した。1回目、2回目は、月潟保育園へ行った。3、4歳児向けと5歳児向けのカプラを実施した。

それぞれの年齢に合わせた遊びの提供を行った。3回目は月潟図書館へ行き、幼児向けの保護者対象に行った。普段図書館の職員がやっている「おはなしのじかん」の後に簡単な工作を提供した。

③つくって遊ぼう

毎月第2週目の水曜日に親子で一緒に工作を楽しむ行事として『つくって遊ぼう』を行った。季節に合わせた工作や、月齢の低いお子さんでも遊べる手作りおもちゃなど、親子で楽しんで工作できるように工夫をしてきた。今年度も、少し月齢の低い子ども達の参加が多かったため、保護者の記念に残るよう子どもの手形・足形を使った工作を行い飾っても楽しめるようなものを製作した。家庭で工作材料を用意して作るのは手間がかかるため、このような工作は大変喜ばれた。今後も保護者のニーズに沿ったものを提供していく。

③しゃべろっと

南区健康福祉課主催の子育て支援研修会に参加し、子育て支援リーダーとなった『子育てオーエンジャー☆みなみ』が中心となり、0. 1. 2 歳の子どもの母親対象に支援を行っている。味方児童館を活動場所とし、育児中のちょっとしたストレスや愚痴を気軽に話したり育児の悩みを相談し合ったりするのが目的だ。今年度は、親子で体を動かして体験できるリトミック、ゆったりとした時間を楽しめるピアノと歌のコンサートや人形劇、また、母親（保護者）もリラックスできるように子どもと一緒にできるママヨガを行った。どの行事も好評でまたやってほしいとの声が多かった。

⑤BP 講座

BP 講座は 2～5 か月の第1子とその母親を対象とした、初めての育児の学び、親子の絆づくり、仲間づくりを目的とした講座で全4回コースで行った。子どもの発育についての勉強会をし、同じ月齢の子どもを抱える母親としての悩みや思いを共有し合い、仲間としての絆を深めた。

（2）来期の課題

南区は子育て施設がとても多く、いろいろな所でイベントを行っている。イベントが重なり、利用者がどちらかを選択しなければならない事があった。折角のイベントが重ならないよう会議等で調整してきたが、さらに情報交換をし、日程調整をしていく必要があると感じた。

移動児童館に向けて、早めに職員間で意見を出し合い、情報収集をし、地域のニーズに応えていく。

2. 小学生事業

（1）総括

昨年度よりも利用人数が増えた。味方児童館で人気の三步ドッジボールをするために来館する子が多い。

低学年の大半の児童は学童クラブを利用している。利用していない児童は、仲間や遊び場を求めて児童館に遊びに来る。比較的下校時間が早いので遊戯室でたっぷりとボール遊びや一輪車の練習、なわとび、ドッジボールなどを楽しんでいる。

中高学年は自分達で自転車やバスを利用して遊びに来ている。面倒見の良い子が多く、

下級生の話をよく聞いてくれる。お手伝いが好きで遊具の整備や準備などを頼むと喜んでやってくれた。

児童館に頻繁に通っている子ども達はいろいろな意見やアイデアが出てくる。子どもたちの方からイベントを企画したいという声が上がった。子どもの気持ちに寄り添いながら可能な限り子どもたちの「やりたい!」を形にし、一緒に楽しい児童館を作っている。

①定例行事『なかよし広場』

『なかよし広場』は、毎月1回、その日に遊びに来ていた小学生が、30分間職員の企画したレクリエーションをして遊ぶというイベントだ。職員が企画したレクリエーションを行うので、子ども達が自分では思いつかないような遊びができ、遊びが広がるというメリットがある。今年度は低学年が参加しやすいようにやった事がある遊びを取り入れながら行った。「なかよし広場」を通して、他学年の子ども同士の交流が広がった。

今年度の春には、なかよし広場で「15周年おめでとう会」を開催し、レクリエーションを楽しんだ。それに参加した4年生女子から自分たちも企画してみたいという声上がり子どもたち自らがみんなで楽しめるレクリエーションを企画した。一緒に実行してくれそうな友達を集め、準備し、参加者も自ら積極的に集めていた。当日は、ボールパスゲーム、新聞紙ジャンケン、しっぽ取りゲームなどをみんなで楽しんだ。参加者30人が楽しく参加でき達成感もありとても満足そうにしていた。チーム戦で行う「三步ドッジボール」も企画していた。オリジナルルールを考案し、リハーサルも行い臨んでいた。

こども企画のイベントに参加した小学2年生からは、なかよし広場でバレーボールがやりたいと要望があり、ルールや参加人数、進め方などを案があったので職員と一緒に企画し実行した。子どもがまんなかの児童館をこれからも継続して行ってほしい。

②移動児童館

今年の『移動児童館』も例年通り『味方ひまわりクラブ』で実施した。内容は、〇×クイズなどのレクリエーションを行った。こどもたちは積極的に参加してくれ、楽しんでいった。その後、味方児童館にも足を運んでくれた子が数名いた。

③南区児童館 4館合同ドッジボール大会

今年度は、第2回4館合同のドッジボール大会を開催した。会場は、白根児童センターで行った。前回は11月開催でとても寒かったので、暖かい時期の9月の下旬に実施した。夏休みは、毎日のように練習していたので、とても強くなった。子どもたちの上達ぶりに感激した。結果は最下位になってしまったが、たくさん子ども達と知り合う事ができ、他学校、異年齢交流ができた。強いと認めてもらい自信になった子もいた。また、自分の弱点に気づき、職員に練習に付き合ってほしいと言ってきた子もいた。真剣に取り組んでいるのが伝わり、胸が熱くなった。

ワーカーズコープが南区全体の児童館を運営しているからこそその強み、連携を大いに発揮できた。今後は、他の2社も加わるが連携しこのようなイベントを継続して行ってほしい。

(2) 来期の課題

味方児童館の特徴ともいえる異年齢の子ども達同士の交流は盛んだ。上級生が下級生を受入れ一緒に遊ぶ姿が日常的に見られる。

自分の意見を主張しすぎる事からトラブルになる事が多い。もう少し相手の話を聴いたり、気持ちを考えたりできると良いと感じる。言葉がけをしながら見守ってほしい。

3. 中・高生事業

(1) 総括

味方中学校とは、中学校の行事や中学生の情報交換のための会議の場に招いていただき密な連携をとっている。中学生は、昨年と比較すると利用が減少した。昨年度は水曜日、土曜日に集団で遊びに来る子が多かったが、現在は通常 1～5 名程度で 2 年生の利用が多い。

高校生は中学生の時に来館していた生徒が、高校生になり定期的に遊びに来ている。日々の生活の話や学校、バイト、友達関係の話などをスタッフに話して帰っていく姿が頻繁に見られる。小学生の遊び相手や小中学生の話し相手もしてくれる事で、小学生も憧れを抱き、自分達よりも下の年齢の子ども達に優しく接してあげたり面倒を見てあげたりすることができてきている。児童館を利用した子ども達が成長し、自分達がしてもらったように今度は下の世代に返していく、こうした循環が双方に良い刺激と成長を与えていると思う。この流れを大切に、幅広い世代が交流できるよう手助けしながら見守っていききたい。

①中学生お楽しみ会

中高生事業は、今年度も 9 月の味方中学校代休日に「中学生お楽しみ会」を開催した。怖い映画を見たいというリクエストが多く、ホラー映画を上映した。その後、お菓子のつかみ取り大会を実施した。職員でお菓子のつかみ取りのリハーサルをしたが、予想外に掴んだ量が多くて足りなくなるというハプニングがあった。多めにもらった子がお菓子を分けてくれてなんとかみんなのところにお菓子が行き渡った。15 名が参加し、賑やかに楽しんでいた。次回も一緒に企画から参加してもらいイベントが実施できると良い。

②クリスマス会

今年も味方中学校吹奏楽部に依頼し、クリスマス演奏会を行った。吹奏楽部はハンドベル、歌、楽器紹介も取り入れ、精一杯子ども達を楽しませようとしている姿が嬉しくとても頼もしかった。

今年はたくさんの人に参加してもらいたいという思いから演奏会の鑑賞できる対象を小中学生 50 名と定員の枠を広げた。吹奏楽部員の家族も演奏会を見に来ていた。高校生になった OG もかけつけ、搬入搬出の手伝いを率先して行い、とてもあたたかい表情で後輩たちの演奏を見つめ、和やかな雰囲気を作り出していた。

③豆まき会

2月1日に豆まき会を行った。中高生が思いきり体を動かすことができるように今年度も「中高生の部」を設けて行った。当日は早めに来館し、事前準備を手伝ってくれ、本番は「小学生の部」の時に福の神をやってくれた。

(2) 来期の課題

今後も中高生の話に耳を傾け、中高生がストレス発散できる場にする。遊戯室など中高生優先タイムを設け、来館者しやすい居場所を作る。中学生が活躍できる場を設ける。味方中学校の運営協議会に引き続き参加し、今後も連携を深めていってほしい。

3. 地域との連携事業

①味方地区公民館との連携事業

- ・育児講座ベビーマッサージ（9月）
- ・陶芸教室（7、8月）
- ・ジャグリング体験教室（2月）

②コミュニティ協議会との連携事業

- ・敬老会に参加（9月）

③味方小学校との連携事業

- ・クリスマス会吹奏楽部演奏会（12月）

④ボランティアとの連携事業

- ・ちびっこクリスマス会
- ・クリスマス会
- ・ちびっこ広場での絵本読み聞かせ